



DOCOMO TEAM DANDELION RACING

Team Release

決勝レポート

2025/3/8 Rd-1 鈴鹿サーキット

天候：曇り／晴

気温：11°C

出走台数：22台

2025年全日本スーパーフォーミュラ選手権開幕を迎えた鈴鹿サーキットは、昨日までの強い北風も止み、太陽がのぞくと暖かさを感じるコンディション。

8日の開幕戦は27周で争われ、レース距離は昨シーズンより短くなり、タイヤ交換は昨シーズン同様スタートから10周目以降のタイヤ交換義務有のレースフォーマットで開催される。

共に2列目スタートの太田選手と牧野選手は、3番手と4番手のポジションキープで1コーナーへ。その後方ではNIPPOコーナー出口でクラッシュが発生し、オープニングラップからセーフティカー（以下SC）導入となる。レースは5周目にリストートとなったが、今度は8周目のS字コーナーでクラッシュが発生し再びSC導入。SC先導のまま10周終了しピットウインドウが開くと全車がピットイン。チームはまず太田選手、そして牧野選手の順でダブルストップを行う。ピットクルーは太田選手をコースに送り出し、牧野選手のタイヤを交換するその時、牧野選手のエンジンがストールしてしまい大きくタイムロス。最後尾でコースに戻ることとなった。

2番手でコースに戻った太田選手は、14周目の1コーナーで首位 岩佐選手をオーバーテイク。3度目のSC導入後も、第2第3セクターでベストタイムを記録し、オーバーテイクシステムもコントロールしながらそのままトップチェックを受け、24シーズンに続く鈴鹿3連続優勝を飾った。

最後尾となった牧野選手は、諦めることなくポジションを上げ、10位フィニッシュ。貴重なポイントを獲得した。

5：牧野任祐 選手 10位

スタートも良く前半ペースもよかったです。セーフティカーのタイミングがすべてだったと思います。ピットストップ時のエンジンストールは、エンジン制御との兼合いもあったようなので、原因解析と対策を進めます。エンジンストールがなければ、より多くのポイントを獲得できたと思います。予選ポジションを生かすことが出来なかつたのが残念です。明日は風向や気温など環境が変わりますし、レースフォーマットも違うので、本来のパフォーマンスでレースできるよう準備をします。

6：太田格之進 選手 優勝

予選ではうまくまとめ切れませんでしたが、決勝ではライバルをコース上でオーバーテイクし、レースマネジメントもしっかりとでき、チームとドライバーの強さを証明することが出来たと思います。

開幕戦を優勝でスタートできたことが嬉しいですし、明日もこのペースを維持して開幕2連勝出来たら最高ですね。